



仲間と一緒に、仕事をつくる

企業組合とちぎ労働福祉事業団 企業ブランドリニューアルのお知らせ

企業組合とちぎ労働福祉事業団は、障がい者、高齢者などの働く場の確保を主な目的として 1988 年に設立されました。その後中小企業等協同組合法に基づく「企業組合」の法人格を取得し、今日まで労働者協同組合として運営を行ってきました。雇われて働くという関係ではなく、労働者一人ひとりが経営責任を自覚して働く「協同労働」を目指し、「互助」「共助」の関係を基本にした「協同労働」の職場をもつとたくさん地域に創り出すことにより、毎日を楽ししく、安心して暮らせる社会づくりに積極的に貢献していきたいとの思いを強くしています。

私たちはこれまで以上に広く皆様に情報発信を行い、一般の方々にも親しんでいただけるよう、新たにブランドネームを「こらぼワーク」と定め、企業ブランドをリニューアルいたします。併せてロゴマーク等のビジュアル・アイデンティティを一新します。

理事長 佐藤 賢二

こらぼワーク

仲間と一緒に、仕事をつくる

<http://www.kyoudou.net>

企業組合とちぎ労働福祉事業団

本部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-659-4959
宇都宮事業所	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-680-6598
小山事業所	〒323-0808 栃木県小山市出井 1523-19 協栄流通株式会社小山物流センター内 tel 0285-25-1805 fax 0285-25-1816
福祉住環境事業部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-684-2403
ソーシャルファーム 小山	〒323-0807 栃木県小山市城東 2-8-19 tel 0285-39-6270 fax 0285-39-6271
ソーシャルファーム 長岡	〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町 293 tel 028-680-6612 fax 028-680-6613

WORKLABO

印刷：ワークラボ（こらぼワーク本部内）
Printer / RICOH Pro C5100S JPN RPCS

WORK LABO では非常利組織や社会的企業、コミュニティビジネス、地域住民、地域企業の応援を目的としたどなたでもご利用いただける活動拠点センターです。

カラーコピー機、大判インクジェットプリンター、断裁機、製本機などの機器を安価に利用でき、パソコン利用、会議室レンタルなど活動に役立つ様々な設備が整っています。

本紙のような会報誌等の印刷に、ぜひご活用ください。

Publishing : CO-LABOWORK
Art Direction & Design : FRONT DESIGN
Edit : Hitomi Yoshida (FRONT DESIGN)
illustration : Syuichi Saito (FRONT DESIGN)

We are deeply grateful to all the people who helped to create this paper.

Copyright 2015 CO-LABOWORK. All Rights Reserved.

こらぼワーク Press

仲間と一緒に、仕事をつくる

01

2015 Autumn

CO-LABOWORK
Quarterly Publication

企業組合とちぎ労働福祉事業団
〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2
tel 028-645-5561 fax 028-659-4959
<http://www.kyoudou.net/>



CO-LABOWORK

TAKE FREE

仲間と 一緒に、 仕事を つくる。

Co-operative,
Collaboration Work,
and Co-Work Labo.
It's "CO-LABO WORK"



あなたらしく働くことで、
くらしが、地域が豊かになる。
こらぼワークは新しい労働のカタチ
「協同労働」のチームです。

合い言葉は「仲間と一緒に、仕事をつくる」。
こらぼワークは、人の数だけ仕事をつくり、
笑顔で仲間と暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

「障害があっても一生働きたくても働けないかも…」
「子育て奮闘中、仕事でまわりに迷惑をかけたくない」
「親の介護を優先させられるように働き方を変えたいな」
「定年を過ぎても、ずっと地域と関わりながら働きたい！」

「働く」ことに対してみんな様々な想いを抱えています。
そんな想いに寄り添う「協同労働」という働き方をご存知ですか？

私たち、こらぼワークがスタートしたのは1988年。
「障害者や高齢者に働く機会を」という想いのもと、
みんなが平等に働ける「協同労働」*1というスタイルで、
一人ひとりにあわせた「しごと」をつくり続けてきました。

たとえば、もうすぐ80歳になる方、
たとえば、障害を持っている方、
たとえば、一般企業では働きにくさを抱えていた方…

様々な人が、自分で働き方を決めて、仲間と相談しながら、
今日もいきいきとしごとに取り組んでいます。
それが、私たちの目指す協同労働というスタイル。

働くことは、あなたらしく生きること。
そして、仲間とともに社会とつながっていくこと。
私たちは働き方を、この地域の未来を豊かに変えていきます。



こらぼワーク

仕事を おこし続ける こと。

創設から30年、新しい働き方のカタチを創り上げることに力を注いできた、こらぼワーク(とちぎ労働福祉事業団)理事長の佐藤賢二。

はじめは、「障害者や高齢者でも、みんなが助け合いながら当たり前のしあわせを感じて生きていける社会の仕組みをつくりたい」という想いでした。

その志はどんな軌跡を描き、どのような未来を創りだしているのでしょうか？

Kenji SATO



佐藤賢二 Kenji SATO

こらぼワーク(とちぎ労働福祉事業団)理事長。北海道出身。東北福祉大卒。栃木県内の障害者共同作業所に入職後、企業組合とちぎ労働福祉事業団設立に参画、専務理事職を経て、1995年～現職。現在、NPO法人あじさい、一般社団法人ソーシャルファーム栃木理事長ほか兼務。社会福祉士、介護支援専門員。

「協同労働」の協同組合※2を創設！ 目指すは「仕事おこし」のプロ

私が福祉系の大学を卒業後に、障害者の方の共同作業所に就職したのがこらぼワーク(とちぎ労働福祉事業団)の原点なんです。共同作業所で働いている障害者の方が低収入のために生活が破綻してしまう、というような状況を目の当たりにしたんです。その時に学生時代から抱えていた疑問が再度わき上がってきました。「就労施設は本当に障害者の発達保障の機会になっているのか？障害があっても当たり前で生活できるだけの収入を確保できないか？」

そんな疑問を抱えながら福祉の仕事に携わり8年経った頃に、ひとつの考えに行き着きます。「年をとっても、障がいがあっても、地域の中で働き、暮らし続けていくことのできる地域社会づくりをしよう。そのためには地域をより良くするための『しごと』をつくる必要がある。そんな『しごと』が、障害者や高齢者だけでなく、同じ考えをもった家族やボランティア、地域の人たちが一緒に支え合い

ながら暮らすコミュニティの仕組みをつくっていくのではないかな。目指すべきビジョンが定まった時に、ひとつの働き方のスタイルを知ったんです。それが、働く人が出資して、一緒に働き、経営に参画する「協同労働」という協同組合のカタチでした。「これだ!」と思い立ち、1988年に「人と地域に役立つ仕事おこし」を設立理念に掲げた任意団体を創設しました。その後、1990年に法人格を取得して、企業組合※3とちぎ労働福祉事業団が生まれました。

同じ考えを指向する方々に支えられて歩んできた創設期

法人を立ち上げて初めて仕事として形にしたのが清掃でした。もともと好奇心の旺盛な性格で、大学時代に短期間で20種類くらいのバイトをしてきたんです。そのなかで一番魅力を感じたのが清掃でした。労働者協同組合の全国組織でもビルメンテナンスをやっていたこともあり、経験があったのも大きかったですね。宇大生協さんはじめ、とちぎコープ

さん、医療生協さんなどに働きかけ、清掃の仕事をいただきました。栃木県内の生活協同組合さんとは今でも仕事が続いており、同じ「協同」を目指す団体どうし、色々なカタチで連携をするまでに発展してきました。清掃やゴミ収集、生協物流倉庫の庫内作業などで順調に事業が安定していく一方で、「清掃のためだけに事業をはじめたわけではなかった」と原点を振り返ったんです。創設から7年間走り続けてきた時のことでした。そこで、私はずっと温め続けていた「環境と福祉」というテーマで事業を再構築しようと動きはじめました。

※2 協同組合 人と人の結びつきによる非営利の協同組織。労働者協同組合をはじめ、生協、農協、漁協など、日本をはじめ世界各国にさまざまな協同組合がある。どの協同組合も、参加する組合員の願いを実現するために人々が自発的に手を結んだ組織。

※3 企業組合 労働者と地域住民が出資して組合員となり、対等の立場で民主的に運営する非営利の協同組合。4人以上の地域住民が集まって資本と労働を持ち寄り、アイデアや技能、技術などを生かして創業し、自らの働く場を創造することができる法人形態。こらぼワークでは、「労働者協同組合」の性格に一番近い「企業組合」を選択して法人を設立。

仕事を おこし続ける こと。

Kenji SATO

時代を先読みした、環境と福祉への 新たな挑戦

「これから環境と福祉の時代が来る。そして、超高齢化社会に供えた在宅福祉の要としてヘルパーが必要になる」と思い、1995 年にヘルパー養成講座をスタートさせます。当時は、介護保険制度がはじまる前で、養成したヘルパーの働く場所や施設がないという新たな問題が出てきました。そこで、私たちの手で「老人デイサービスセンターのん美里ホームながおか」※4 を作り、ヘルパー講座の修了生たちに働いてもらいました。さらに、小山市城東に「デイホームあじさい」※5 を同じ年に開設しました。

高齢者福祉事業と併せて進めていたもうひとつのプロジェクトがあります。それは里山に福祉と労働の支援施設を集約させたコミュニティをつくる「福祉と協同の里構想」というもので、設立当初から思い描いていました。

「のん美里ホーム」をつくった長岡という場所は豊かな里山で、その構想を実現させるのに最適だと思い、社会福祉法人で保育園を開設しました。今では「里山の環境保全」という思いのもと、子ども、高齢者、障害者、さまざまな立場の人が集まり、助け合いながら暮らしています。

道を切り開いた「専門性」と「提案力」

清掃の請負で始まったとちぎ労働福祉事業団は多様な分野で専門性を持った事業へと発展していきました。そのきっかけとなったのは、創業当初、私が小山の焼却炉で仕事をしていた時の出来事です。当時の私はゴミを焼却炉に詰め込んで燃やしながら、ワープロで事務書類を制作していました。その姿を



見たパートさんから、「大学を卒業すればどこでも就職できるバブルの時代に、何を好んでゴミ焼却の仕事をしているの?」と言われてしまいました。悪気のないひと言なのですが、その言葉が胸に響き、清掃の仕事をはじめ多様な分野で高い専門性がある事業を打ち出していこうと決意し、新たな挑戦を始めたんです。

それを対外的に大きくアピールできたのが、日本道路公団さんと(株)帝人さんと協同でつくりあげた高速道路の「木製遮音壁」※6 でした。環境保護のために間伐材を束ねて遮音壁にするというもので、開発から施工まで携わり、東北自動車道上り大谷パーキングエリア内400mにわたって設置しました。

さらに、会計、経理、労務関連など事務的なことでも専門資格のある仲間を増やしていく、高い専門性を持った提案型のしごとづくりを目指していきました。

「働くこと」を通して、失われかけている地域の「絆」を再生

現在、およそ 80 名の人が組合員として集まるまでに至りました。中には障害のある方や高齢の方も一緒に働いています。また約30 団体もの非営利組織と事業提携※7 をしてい

ます。設立から30年で、色々な立場の人々が関わり、繋がり、支えあう仕組みが少しずつ出来上がってきました。

2015 年には私たちの活動をより多くの方々に知っていただくため、とちぎ労働福祉事業団のブランドネームを「こらぼワーク」と定め新たな一歩を踏み出しました。

生きにくさが広がる日本社会。「働く場をより一層広げ、地域社会における支え合いの仕組みをつくる」。私はそこに、地域の「絆」を再生する可能性を感じています。そのためにも、これからの日本社会はどんなカタチの産業が地域で起きるべきか? 地域の中で循環する仕事づくりがどうしたら出来るのか? 常に自らに問い続けています。私たちが思い描くビジョンに終わりはなく、「仕事おこし」のチャレンジはまだまだ続いていきます。

※4 社会福祉法人美のりの里（宇都宮市長岡町）

※5 NPO 法施行後の 1999 年、「特定非営利活動法人あじさい」として法人認証。

※6 高強度化学繊維テクノーラロッドを活用した、木材の付加価値を高める画期的な工法。人に優しい有機的な景観の演出に成功した事例として、環境博でも展示されました。

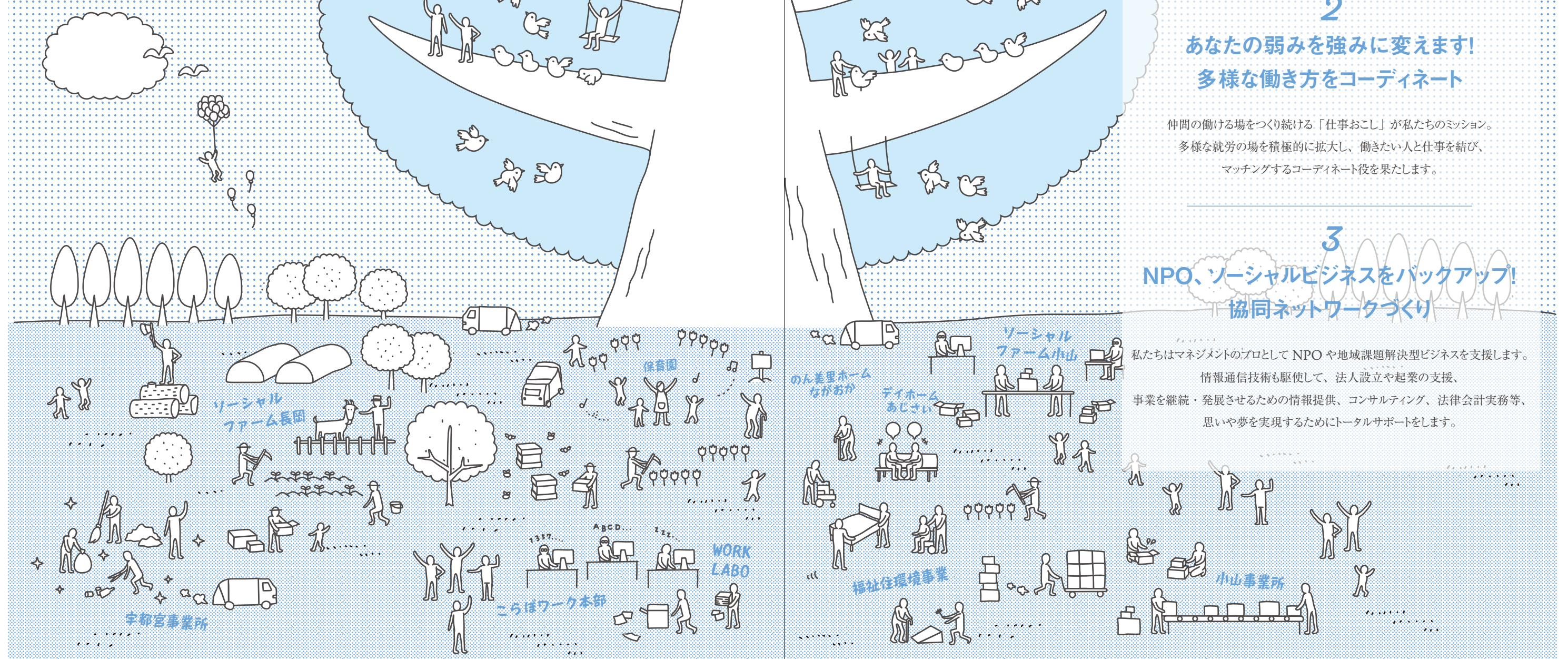
※8 2015 年 10 月現在、生協（6 法人）、NPO（15 法人）、社福（3 法人）、一般社団（7 法人）、まちづくり組織（1 団体）と事業提携中、日常的にサポートを行っています。



「人×夢=仕事創造」

ひとの数だけ、ライフスタイルや
想い、夢があります。

だから、わたしたちは
ひとの数だけ「働く」をデザインし、
「仕事」をカタチにします。



こらぼワーク「3つ」のビジョン

OUR VISION

1

個性をいかしてイノベーションを起こす!
創発型の協同組織づくり

目指すイメージは「自由に飛び回りながらも集団として動いていく鳥」。
多様な個性の持ち主が協力し合いながら得意な分野で自分を磨く。
個々の能力が掛け合わされて創造的な成果が生まれる。
そんな成長する組織づくりのために、自己啓発や能力開発を支援します。

2

あなたの弱みを強みに変えます!
多様な働き方をコーディネート

仲間の働ける場をつくり続ける「仕事おこし」が私たちのミッション。
多様な就労の場を積極的に拡大し、働きたい人と仕事を結び、
マッチングするコーディネート役を果たします。

3

NPO、ソーシャルビジネスをバックアップ!
協同ネットワークづくり

私たちはマネジメントのプロとして NPO や地域課題解決型ビジネスを支援します。
情報通信技術も駆使して、法人設立や起業の支援、
事業を継続・発展させるための情報提供、コンサルティング、法律会計実務等、
思いや夢を実現するためにトータルサポートをします。

こらぼワークが大切にしているのは「協同組合」ということ。事業をするユニットは自立していて、責任を伴いながらも自由に創意工夫できる。もっと自分らしく働きたい、社会に関わって働きたい、そんな「人間らしさ」が特徴だと思います。

—
2002年に参加。翌年、社会保険労務士事務所を開設。事業の現場を後方で支える「総務・経理サポート」事業にやりがいを見出し、非営利組織の給料計算、社会保険関係、会計記帳代行等を担当。2008年中小企業診断士登録。コミュニティビジネスで地域活性化を志す。

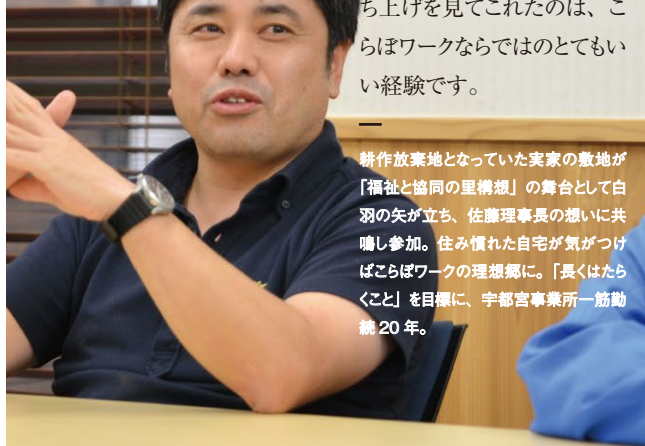


田中さん

専務理事
本部 総務・経理サポート
(13年)

私が入った当時は小さかった事業規模が、清掃だけでなく、ゴミ、福祉など多様な仕事をおこして大きくなっていました。色々な事業の立ち上げを見てこれたのは、こらぼワークならではのとてもいい経験です。

—
耕作放棄地となっていた実家の敷地が「福祉と協同の里構想」の舞台として白羽の矢が立ち、佐藤理事長の想いに共鳴し参加。住み慣れた自宅が気がつけばこらぼワークの理想郷に。「長くはたらくこと」を目標に、宇都宮事業所一筋勤務20年。

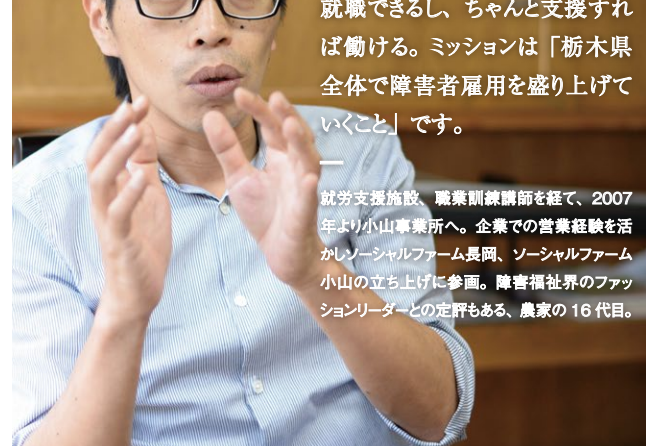


石川さん

宇都宮事業所
ビルメン事業部
(20年)

障害がある方でも「働きたい」と来た人は受け入れる、「働きたい」という気持ちに寄り添うことが基本です。企業と働き手のギャップを埋める訓練をすれば障害者でも就職できるし、ちゃんと支援すれば働ける。ミッションは「栃木県全体で障害者雇用を盛り上げていくこと」です。

—
就労支援施設、職業訓練講師を経て、2007年より小山事業所へ。企業での営業経験を活かしてソーシャルファーム長岡、ソーシャルファーム小山の立ち上げに参画。障害福祉界のファッションリーダーとの定評もある、農家の16代目。

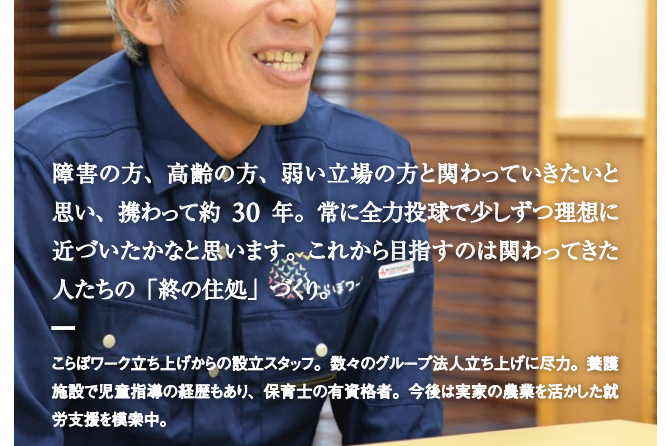


津野田さん

ソーシャルファーム小山
管理者
(6年)

障害の方、高齢の方、弱い立場の方と関わっていききたいと思い、携わって約30年。常に全力投球で少しずつ理想に近づいたかなと思います。これから目指すのは関わってきた人たちの「終の住処」づくりです。

—
こらぼワーク立ち上げからの設立スタッフ。数々のグループ法人立ち上げに尽力。養護施設で児童指導の経験もあり、保育士の有資格者。今後は実家の農業を活かした就労支援を模索中。



菊地さん

宇都宮事業所
ビルメン事業部
(30年)

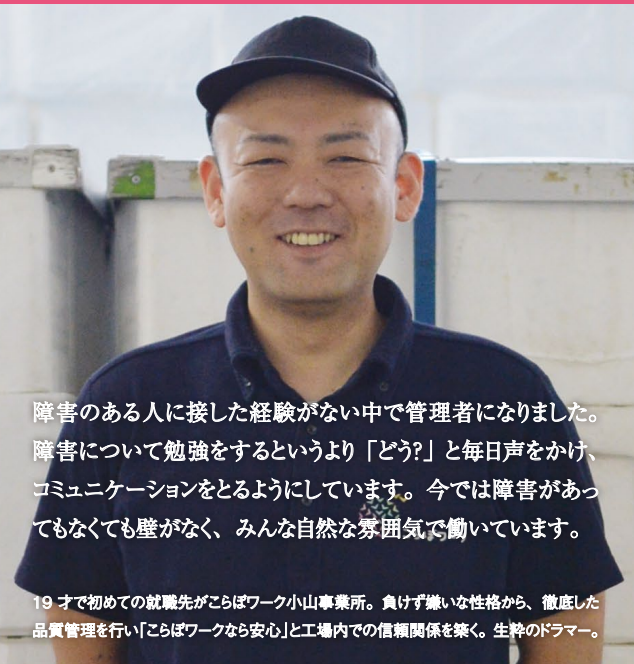
こらぼワーク × ワタシ

"CO-LABO WORK" and My Life

「こらぼワーク」ってどんなトコロ？ 一般の企業と何がちがうの？
個性豊かなスタッフの笑顔から、その答えがみえてきました。

五十嵐さん

小山事業所
所長
(14年)

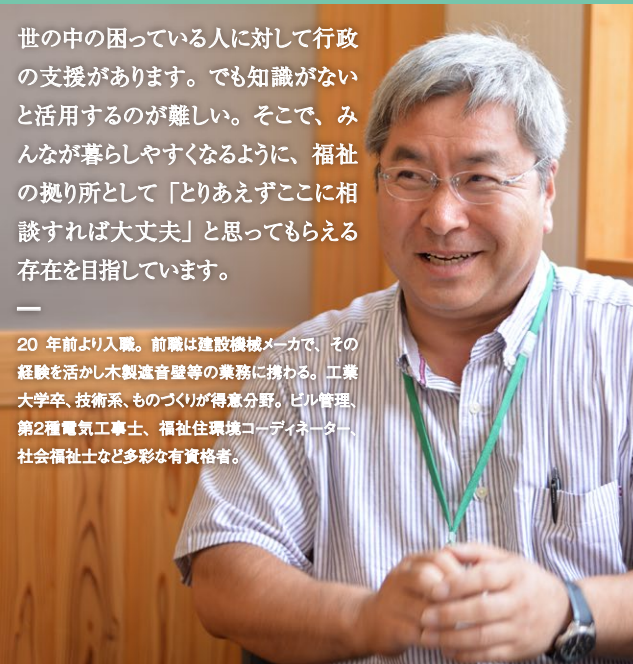


障害のある人に接した経験がない中で管理者になりました。障害について勉強をするというより「どう？」と毎日声をかけ、コミュニケーションをとるようにしています。今では障害があってもなくても壁がなく、みんな自然な雰囲気です。

—
19才で初めての就職先がこらぼワーク小山事業所。負けず嫌いな性格から、徹底した品質管理を行い「こらぼワークなら安心」と工場内での信頼関係を築く。生粋のドラマー。

鈴木さん

福祉住環境事業部
県南地域エリアマネージャー
(20年)



世の中の困っている人に対して行政の支援があります。でも知識がないと活用するのが難しい。そこで、みんなが暮らしやすくなるように、福祉の拠り所として「とりあえずここに相談すれば大丈夫」と思ってもらえる存在を目指しています。

—
20年前より入職。前職は建設機械メーカーで、その経験を活かし木製遠音壁等の業務に携わる。工業大学卒、技術系、ものづくりが得意分野。ビル管理、第2種電気工事士、福祉住環境コーディネーター、社会福祉士など多彩な有資格者。

伊藤さん

宇都宮事業所
環境美化事業部
(8年)



先天的に障害を持って生まれてきた我が子。将来は必ず社会へ出なくてははいけません。その時に、地域の一員として暮らしていってほしいと思っています。そんな想いがベースになって、将来はここで吸収した仕事をアウトプットして、障害福祉の環境づくりに繋げていきたいです。

—
前職では「さきり織り工房」で教室の運営、指導に携わる。子供ができたのをきっかけにこらぼワークへ参加したイクメン。小山事業所にてごみのルート回収、昨年5月より宇都宮事業へ配属。

田代さん

本部
総務・経理サポート
(6年)



家庭の事情で社会的に不利な状況を抱えている人は意外と沢山いて、珍しいことではないんです。こらぼワークではそんな事情をみんなが理解してくれる。ここは、自然と助け合いが生まれ、様々な事情があっても融通をきかせて働ける職場です。

—
派遣会社でのシステム管理を経て、2009年より現職。PC関連のよろず屋としてグループのシステム全般だけでなく、総務経理サポート、社内給与も兼務。スタッフの調整役としても日々邁進中。